

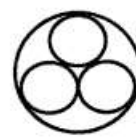
I 「もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉（罪の性質）のうちではなく、御霊のうちにいるのです。もし、キリストの御霊を持っていないなら、その人はキリストのもの（真に救われている人）ではありません」：9。

1. 主を信じていること自体が御霊の内住と救われている保証！「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言う（信仰告白）ことはできません」（Iコリント12：3）。

2. 9節の「神の御霊」と「キリストの御霊」の意味と三位一体の偉大な恵み

①父なる神の一部分を御霊が構成されているという意味ではありません。神であるキリストの一部分を御霊が構成されているという意味でもありません。そうでなければ、父と子と御霊は合わせて始めて完全な神となる事になる。しかし、父なる神も、キリストなる神も、御霊なる神も完全な神です。と同時に、父と子と聖霊という三つの位格は、ばらばらの三神教ではなく、永遠の初めから互いに完全な愛で愛し合う交わりの神であり、罪がない深い愛の完璧な交わりのために三位「一体」のお方です
創世記1:1。

※次の図を参照→



教会は、三位一体の神の愛の交わりの一致を現すことを目指す共同体です。神の愛を先ず受けて、神を愛し互いに愛し合う共同体の教会は、三位一体の神の愛の交わりを現し、神の栄光、御姿を現わす。

※証し。

②「神の御霊」と「キリストの御霊」が別々におられるという意味ではありません。同じ御霊です。ではこの表現の意味は＝「神の御霊」とは、「父なる神から遣わされた御霊」の意→「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためです」（ヨハネ14：16）。また「キリストの御霊」とは、「キリストが遣わされる御霊」の意→「わたし（キリスト）が父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証ししてください」（ヨハネ15：26）。父なる神は、私たちのための救いの「計画者」、子なる神キリストは、御父に従い、私たちの救いのために十字架で死に復活し救いの「成就者」、その後、父なる神は、御霊を御子に与え、その御霊を御子は教会に、救いの「証し主、届け主」として与えられたのです。御父と御子と御聖霊は救いの役割分担をされているのです。御霊のことは「神の御霊」と述べても、「キリストの御霊」と述べても構わないのです。

③御霊が私たちのうちに住んでおられることは奇跡的な恵みです。旧約時代は、幕屋、神殿の至聖所に神が臨在されると教えられています。大祭司以外の方が勝手にそこに行けば死んだのです。しかし今主の十字架と復活により罪の償いと救いが完成したので、主を信じる信仰により、いつでも神に近づけるのです。神のほうも、私たちに近づいてくださり、そばにいてくださるだけでも恵みですが、何と私たちの汚れた心に喜んで父（Iヨハネ4：15）と子（ガラテヤ2：20）と聖霊が住んで私たちを愛し交わり、心を聖め続けて下さっているのです。※日頃から偉大であこがれ尊敬していても親しくお話しなどできないと思っている人から、「あなたの住まいに行って良いですか」と言われたら？今、現実に世界、宇宙で最も偉大で愛に満ちた神が、私たちの心に住んでおられるのです！ハレ

ルヤ！今や私たちは罪の支配の中ではなく「御霊のうちにいる」のです。霊的結合の恵み！祝祷の「聖霊の交わり」は、三位一体の神との霊的な結合、一体化の交わりの恵みを含みます。

II 「キリストがあなたがたのうちにおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、御霊が義のゆえに

いのちとなっています」：10。

1. 「キリストがあなたがたのうちにおられる」。9節では御霊の内住が語られましたが、ここでは、キリストの内住の恵みが語られます。奇跡的な愛の恵みです。愛の限界のある私たちは、愛することが難しい人の家に近づこうとはしません。しかし、キリストは私たちを心から愛しておられるので、私たちの心の家に罪が残っていても、キリストは私たちの心に住み、私たちと愛の交わりを続け、心の罪を聖め続け、勝利を与えてくださるのです。
2. 「からだは罪のゆえに死んでいても」=私たちのからだ、肉体は、罪のゆえに、だんだん弱り、死に向かっても。聖書は正直です。主を信じ魂が救われても、肉体は、年を重ねるごとに弱り、死に向かいます。しかし、失望する必要はありません。「私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人（肉体）は衰えても、内なる人（御霊により新しいいのちを与えられた霊、魂）は日々新たにされています」（IIコリント4：16）。※証し：病で肉体は日々弱くなり、内なる人の信仰は日々新たにされた方。
3. 「御霊が義のゆえにいのちとなっています」=私たちの心に住まれる御霊は、私たちに罪の自覚と告白とその罪のための主の十字架と復活を信じる信仰を与えられ、神はその信仰を見て、私たちに義（主が私たちの身代わりに罪とされ、その主を信じる私たちが無罪、正しい）と認められ、新しいいのち、永遠のいのち（神を深く知り続け、神と愛の交わりを地上でも天国でも永遠にできる恵みのいのち）を与えられるのです。何という恵み！

III 「イエスを死者の中からよみがえらされた方（御父）の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリストを死者の中からよみがえらされた方（御父）は、あなたがたのうちに住んでおられるご自分の御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かして下さいます」：11。

みことばは、他のみことばで補い合い、理解を深めさせます。この11節を説き明すみことば→

「神は主をよみがえらされましたが、その御力（御聖霊の力）によって私たちも、よみがえらせて下さいます」Iコリント6：14。※納骨式や墓前礼拝の意義。これらの確実なみことばの希望がある！

「死者（主を信じて死に天国に行った人々）の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ（衰えていく罪ある体で死に）、朽ちないものによみがえらされ（永遠に朽ちないからだに復活）、卑しいもので蒔かれ（罪ある体で死に）、栄光あるものによみがえらされ（その人にとり最も輝かしい栄光あるからだに復活）、弱い体で蒔かれ（弱いからだで死に）、力あるもの（死、罪、弱さ、傷、障害のない最も健康なからだ）によみがえらされ、血肉のからだで蒔かれ（罪と弱さのある肉体で死に）、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだもあるのですから、御霊のからだ（御霊に満たされたからだ）もあるのです」Iコリント15：42-44。これらのみことばは、「使徒信条」の「からだのよみがえりを信じます」の本当の意味をみごとに説明しています。ひらがなの「からだ」とは、完全な「体と魂」の意味。

「確かにこの幕屋（肉体）のうちにいる間、私たちは重荷（病、弱さ、痛み、老化）を負ってうめいています。それは、この幕屋（肉体）を脱ぎたいからではありません。死ぬはずのものが、いのち（永遠のいのち、主の復活のいのち、御霊のいのち）によって呑み込まれるために、天からの住まい（栄光の

からだ) を上に着たいからです。そうなるのにふさわしく私たちを整えてくださったのは神です。神はその保証として御霊を下さいました」Ⅱコリント5：4－5。

祈り：三位一体の神の驚くべき恵みを感謝します。